

発行日 昭和51年2月3日(火)

第13号

中央大学 理工学部 電気工学科同窓会々誌

発行所 東京都文京区春日1-13-27 中央大学理工学部同窓会 TEL(813)4171 (内)511

あいさつ

会長 大類 浩

55年は石油パニックの後を受けて不景気の一年でしたが、56年はどうでしょうか。皆様には益々張り切って御活躍の事と存じます。

さて本校の四学部の移転は五十三年度をめぐりまして校舎も着工されて進行中ですが、理工学部の方はこの移転に続いて着工される予定で、何分財産を売却しながらの移転ですので大分遅れがちです。しかし理工学部の増築計画が完了すれば外形的には大変立派な理工学部になるでしょうが、これにともなうて内容の充実が問題となります。どうも私立大学理工系の定員増につれて受験生も低レベルの人が集まるような傾向も若干見つけられるので我々教職員の一層の努力が必要と思われれます。

本年は猪狩先生の外遊、小林先生の外遊、藤田先生の外国出張、高橋先生のフンボルト財団によるミュンヘン工大での外国留学等々がありまして電気工学科の発展のために喜ばしいことと存じます。

今回の総会はまた、八洲電機、皆々様に世話を頂きました。御苦勞に御礼を申し上げます。下たく存じます。

御 挨拶

主任教授 梅原忠利

電気工学科の五十年度の主任を引受けてい
る義務として何か書けということで、重い筆を
取上げた次第ですが、先ず同窓生の数が年々
増加し、同窓会が発展の経過を辿っていることは、
同窓生相互の親睦、扶助、母校との関係等、意味
から誠に喜ばしいことで、将来益々盛大になるこ
とを希望致しております。

さて、昭和五十年度の中央大学で、最大行事は多
分の広大な地域に、私大移転のモデルケースとして、
雄大な構想の下に建設が開始されたことです。完
成の晩には米国の大学と肩を並べることもできる
立派な環境の大学になるものと思われ、他大学の垂
注の的になるのではないかと考えています。ただし理
工学部は残念ながら現在の場所に教室棟等の増
築を以て狭隘な現状が多少なくなるが、多摩地区
のようは余裕たっぷりという気分を味わうことはで
きそうもありません。ただ都心ですから交通だけは便
利の上もよいという利点はあります。

電気工学科内のこの一年間の人事移動として
は、実職の世話をしていた幸西孝君が退職され
て会社の重役として大活躍しております。また
佐藤知則君は管理工学科に移られました。また
不幸にして昨年暮に他界されたことが痛恨事
でした。その他の教員メンバーは不変です。また

高橋雄造君は田独で留学生として勉学中で
あり、遠藤正雄君は本年四月から半年の予
定で海外留学されることになっていました。そ
の他のメンバーは学校におりますので、チャンスがご
ございましたらお話をしにお寄り下さい。

終りにこの紙上を借りてお願いしておきたい
ことは、五十年度の就職状況は当初心配された
程ではなく、例年位の就職率になって一安心とい
所ですが、五十一年度も樂觀を許されないの
で、もし諸君の勤務先等で求人募集がある
ときは、電気工学科の誰でも結構ですから、御
一報を賜われれば大変有難く存じます。
諸君の御多幸をお祈りして筆を擱きます。

佐藤知則氏急逝

同窓生の皆様には良く御存知の本会幹事佐藤知
則氏は昨年十二月十日午前一時御自宅にて心臓
麻痺のため急逝されました。

佐藤氏は昭和三十五年本学電気工学科を卒業後
昭和三十七年より母校に戻られ電気工学科の一員
として教育・研究に精進されていたことは周知のこ
とであり誠実にして、厳しさの中に温情あふれる性格は
同窓生に皆様の記憶に新しいことと存じます。勿論同
窓会の在校幹事として種々雑務を気持よく良く担
当され、会の発展に多大の貢献をされてきたわけ
でありまして、同氏の突然の死による影響の

本年同回同約会の総会概要

本年同回同約会及び懇親会は幹事会社にて東京区に於て開催せられた。懇親会は三軒会館にて昨午二月三日開催せられた。大類会は昨午初め迄生方多数の御出席を含めて約10名の同窓生、御出席を戴き非席に盛大に行なわれ、また、サービスマンとしてキヤンパロをお願ひいたしました。トランプ・ピンクにて抽せん会を行なったり、夜中に一時を過ぎしてしまつた時の模様は同席に撮り取りました。今度の総会の席に持参し御披露致します。次に本同回幹事会は本年一月二三日六時より中央大学で行なわれました。本年の幹事会社である八洲電機株式の同窓生を初め約十名の同窓外幹事の参集を得、十時過ぎまで活発な議論が行なわれました。議題は本同回総会の幹事総会開催地並びに事務外地理事務から、里井氏の演説を以て、今後更に議論を進めようとする旨の総会に向けて何らかの進展を見たことも、幹事一回に願ひいたします。同最後は昨午の幹事会社にて御披露頂戴しました東京区川崎町田村と初めとする東京区三軒会館に入つて今回の幹事会社である八洲電機株式の里井氏と初めとする八洲電機株式の代表者との同約会同席の同席の御礼申上ります。

(佐藤)

報告

古久信幸先生の御次女正子女士ロサンゼルス
の坂元誠丸と御結婚(昨午田村) 昨午十二月
二十四日赤十字会誕生の由

本会々長大類浩先生の御次男

昨午昔の十二月十二日御結婚

大悟法政路氏(昭和四年卒)に御長男誕生

昨午七月二十五日

小林幸一氏(昭和初年卒)に御長男誕生

昨午十二月十日

佐藤俊一氏(昭和四年卒)昨午五月十日に御結婚

訃報

本会副会長・里崎勝吉氏(昭和十九年卒)

父君逝去 昨午十二月二十日

本会幹事 吉田政尚氏(昭和十九年卒)

母君逝去 本年一月十日

本会副会長 遠藤正雄氏(昭和五年卒)

母君逝去 昨午

本会々の海外出張相

一昨午田村半半年間猪狩先生ラジローパン

の御披露は昨午の午後二時途途

材料の発表は昨午の午後九時途途

ました。昨午三月十三日林先生はヨーロッパ

アメリカ半半年間高輪先生は昨午田村に

昭和十九年度会計報告
 昭和十九年度の会計報告は、神原先生が同六月
 十日にアメリカンキリスト教会、藤田先生が同日にアメ
 リカ出張、鈴木先生も十日にアメリカ人と大分国際
 的に参加されました。更に本年三月には半年の予定
 として藤田先生がヨーロッパに出発されました。栗井三雄先生
 の通帳が、この間に折りは各先生方
 との話し合はれたるなり、情報交換をなされるとい
 うことになつた。

編集後記

例年になく、前年よりなつてしまつた。これをいふのは
 から、一方で危険な状態に陥つてしまつた。問に答へ
 最低の責任を求めた。得た。皆の力と、その
 然るに、このころに、冬枯れの時期に、総会を開
 く。この間に、数年前より、その基礎的、精神的
 をする。昨年秋から本年始のころに、このころに、
 本校幹事佐藤君の突然の死を、お相
 づかひの、全々、このころに、狂気の、
 本部の、親戚、御理解、おられた。このころに、
 を、このころに、おられた。このころに、
 返す言葉です。同窓生、情報、このころに、
 情報の、このころに、本誌を、おられた。このころに、
 因に、このころに、慶事、おられた。このころに、
 連絡、このころに、このころに、
 一年一回の本誌、このころに、
 ます。このころに、何れ、このころに、
 に出く、このころに、このころに、
 へ、このころに、このころに、
 には、このころに、このころに、
 同窓生の、このころに、このころに、
 流を、このころに、このころに、
 (昭和二十一年二月三日、下)

支出の部

49年度総会費	391000
通信及び印刷費	156280
アルバイト代	27500
事務運営費	33290
名簿関係アルバイト代	7000
慶弔費	300
次年度繰越金	1258434
計	1873804

収入の部

前年度繰越金	1107438
総会費	397500
預金利息	56786
名簿売上代	10580
終身会費	301500
計	1873804

(在校幹事一ノ一回)